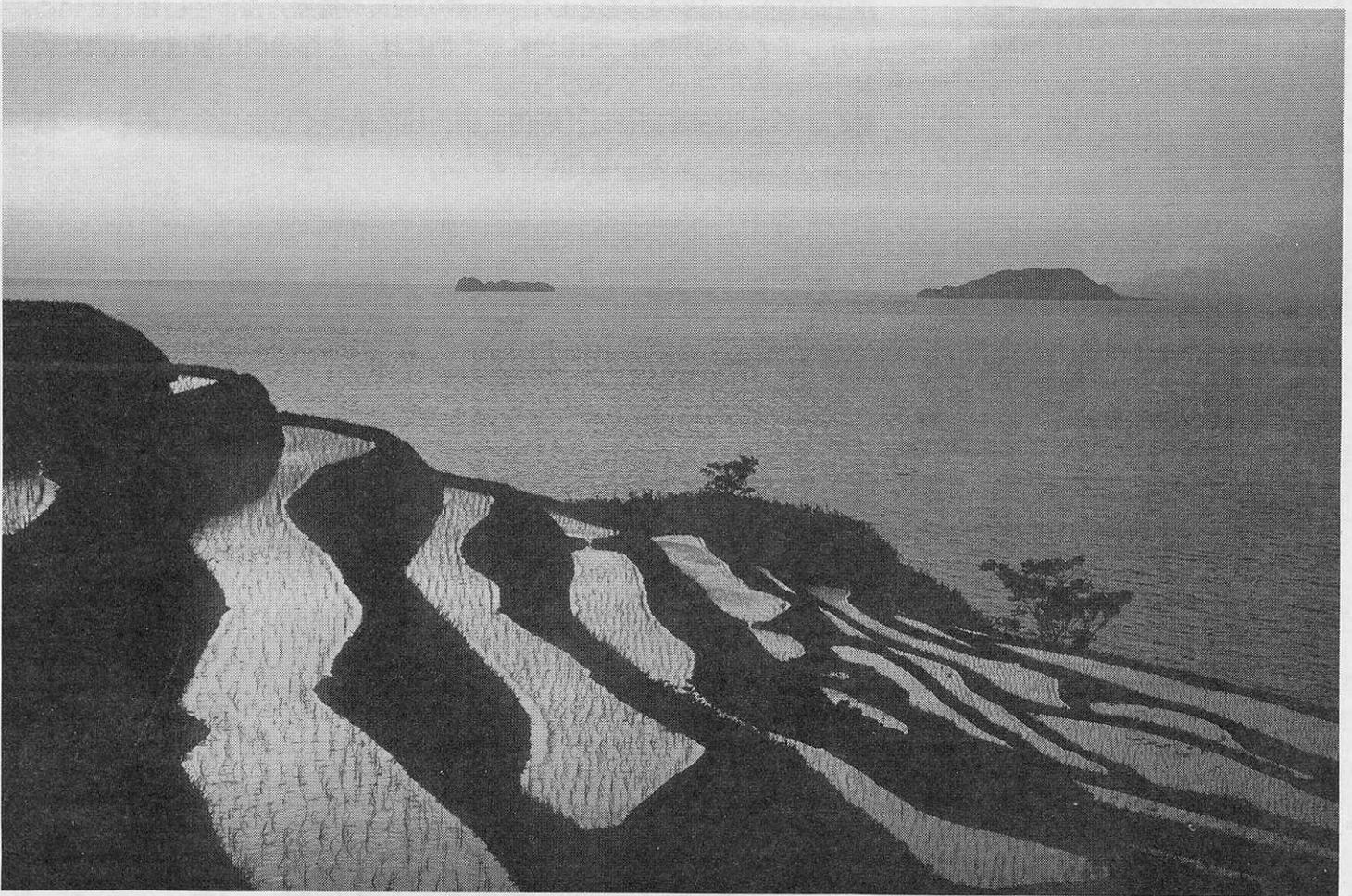


# 棚田ライステラス

第5号 1997. 1. 15  
(季刊・年4回発行)

発行/全国棚田(千枚田)  
連絡協議会  
編集/ふるきやネットワーク・木村美江  
〒160 東京都新宿区若葉1-6  
エンゼルBOX101  
TEL 03-3355-0420/FAX 03-3355-4220



陽光の朝・京都府伊根町(牧野英喜/京都府)

あけまして  
おめでとう  
ございます

青い海と緑に囲まれた町、京都府伊根町。波静かな伊根湾に沿って立ち並ぶ舟屋や漁港、浦島太郎伝説が残る町並みは風光明媚である。NHKのドラマ“ええによほ”の舞台にもなり伊根町のファンも増えた。

海と空を正面に、新井(にいい)地区の千枚田を見下す坂道は、絶好の撮影ポイントだ。早朝から大勢のカメラマンが訪れている。海から太陽が昇り、少しずつ千枚田を照らしていく様には、自然の偉大さと美しさを実感させられてしまう。

この千枚田に対し、昨年京都府では“千枚田を保全していくか否か”を問うアンケート調査を町に向けて行った。それがきっかけとなり、“どのように保全していこうか”という話し合いが町と農家の間で始められた。

そして、今春からは千枚田の保全に取り組んでいる地域の視察を始める。「行政と地域が一緒になって千枚田について考え、意見を言い、一步一步確実に最善策をみつけていきたい」と、町では話している。

●特集●

棚田を守る農家の姿



「田毎の月」の棚田を守る田んぼの神様 (更埴市)

# 私の想い。

棚田の有効活用や保全策として、行政の政策や援助方法が注目されている。しかしそれが効果的に活用されるためには、生産者側の意欲や活力が大きなポイントになってくるだろう。

そのような状況を踏まえ、棚田で精力的に米づくりをしている2人に棚田の魅力や農業への想いを聞いてみた。

## 「良い物は高い！」が当然

佐賀県西有田町

前田正人さん



それから新たに、5町ほど田んぼを借り受け、全部で170町、25枚になった。すべて標高300以上の東向きの斜面にある棚田である。一番始めに朝日を浴び、一番早く日が沈む。米にとっては最適な環境で、母親と奥さんと3人で米を作っている。

サミットがきっかけで、前田さんが入っている岳地区の青年部では棚田と地域おこしについて真剣に考えるようになった。また、サミットで発言したことで新聞やテレビの取材を受けたほか、棚田米への問い合わせも増えた。この機会に2つの取り組みを始めることにした。

西有田町の専業農家である前田正人さん(35歳)が、第2回棚田サミットのパネルディスカッションでそう発言したとき、会場から大きな拍手が沸いた。生産者として実感のこもった意見であった。一言一言力強く話す口調に、メモをとる手を休め振り向くと、年輩の農業者が多い会場の前方で、凛々しく話す若い前田さんの姿が見えた。農業者の生の声が聞けそうだなと思い、前田さんに電話をかけた。

◆ 前田さんは高校を卒業してすぐ、岳地区で畜産と水田の複合経営をしていた親の後を継いだ。以来、養豚業を続けてきたが、2年前に父親が亡くなり、120町の棚田

も引き継ぐことになった。「小さい頃から父は「何やかんや」とやかましいなりに、トラクターやコンバインに乗せてくれました。そうやって農作業を一通り見てきたので、急に棚田で米を作ることにしても戸惑いませんでした。ただ、考えていたより高度な技術が必要だし、手間がかかるんですね。一番苦労しているのは畦塗り。棚田は山に沿って曲がりくねっているでしょ、あのカーブがくせ者なんです。今でも、60歳を越えた母にはかかせませんね」。

「『都会の人たちと一緒に棚田を考え共感できる方法は何か』、青年部でとことん話し合った末にオーナー制度をやってみることにしました。田植えと稲刈りの時期に来てもらい、一緒に棚田米を作る大変さや、自分の作った米がどれだけおいしいかを実感してもらったつもりです」。

さらに棚田米を直接消費者に売る「棚田契約米」も始めた。「今までは作った米を農協に持っていき、政府が買う値段で引き取ってもらってました。しかし、棚田では平地の6〜7割しか米がとれないため経済効果が少なかった。私は、生活排水が入っていない澄んだ水で作った棚田米に自信を持っています。テ・カップリングも必要ですが、ただお金をもらうより自分たちが作ったお米が高く売れた方がうれしいが農家の本音。だから、

新食糧法に変わり、米の自由販売ができるようになったことは、棚田農家にとって希望の光です。昨年は4500\*の契約が取れた。今年は6000\*を有機米で作付けできる見込みだ。取り組みと同時に、オーナー制度と契約米の管理等をする『岳信太郎棚田会』を結成した(名前は古くから岳地区に残る歌の歌詞からとった)。メンバーは農業を営む若手中心の12名。たびたび集まっては農業談義が弾む。

「険しい山々を開墾し、営々と棚田を守り続けてきた先祖の苦労とその想いを、感謝の気持ちで受け止めたい気持ちで一杯です。そしてそれを未来へと伝えることが私たち農業者の義務であり、それが棚田への恩返しになると思っています。」

前田さんの取り組みは始まったばかり。しかし、一步一步、力強く前に進んでいる。そこには、前田さんの棚田米への自信と揺らがない棚田への想いがある。

# おいしかったのびと言が聞きたくて

長野県更埴市

渡辺昭次さん

戸倉駅に着いたら小雨が降り出してた。初冬の冷え込みに身を震わせながらホームを歩いていると、改札口から体を乗り出すようにして手を振る渡辺さんの笑顔が

見えた。

渡辺昭次さん(67歳)は、地元の郵便局を退職するまでの40年近い間、姨捨地区の50\*程の棚田で兼業農家を続けてきた。現在も棚田で米と葡萄を作るかわら、更埴市八幡南沖地区土地改良区理事長『長野県営ほ場整備委員会・長尾根工区委員長』『更埴市棚田保全推進委員会会長』等を務めている。細かい格子柄の背広を着た渡辺さんのふっくらした顔立ちに浮かぶ柔和な笑顔とソフトな口調からは、長/の付く堅苦しさは感じられない。渡辺さんの自宅は、姨捨棚田の山の中腹にある。見下ろせばアル

プスを背にして善光寺平が広がる更埴市内の全景が、見上げれば稲刈りが終わり休息をしているような静かな姨捨棚田が見えた。「本当に棚田の真ん中で暮らしているんですね」と言うと、渡辺さんは照れくさそうにこたつに入りながら居間の大きな窓に目をやった。窓の外も棚田だらけなのだ。

渡辺さんは、終戦を迎え復員した後、郵便局へ務め始めたと同時に棚田農家であった親の後を継いだ。「棚田で米作りをするのはいへんだけど、励みにもなったんです。だって、大きい田んぼで1枚田植えをする間に、こっちは2

〜3枚もできる喜びが味わえるでしょ。もっとも最近では機械が入るので関係なくなりましたけど。棚田では米の他、養蚕の桑やあんず、りんごなど、いろいろ作りましたね。昭ちゃんの棚田農業試験場みたい」って言われてました。農業で所得をあげるには決まった種類をたくさん作る方が効率的ですけど、うちは兼業農家で規模が小さいのでその方がよかったですよ。」

更埴市の農家はほとんどが兼業である。農業以外の収入は農機具や田の整備のための資材、機械を買いにお金に充てている。棚田を基盤整備し機械が入れ、農道や水路が整備されることは、昔からの地



第2回棚田サミット会場へ向かう車の中から見えた西有田町の棚田。美しい!

域の念願であった。

長野県が更埴市内の農地を地域ごと全5工区に分け、ほ場整備事業を始めたのが昭和56年から。以来、渡辺さんは委員長として姨捨棚田がある長尾根工区の124戸ある農家をまとめている。条件の悪いところから徐々に整備を進めていたが、平成5年になってやっと長尾根工区の順番が回ってきた。

「棚田を守るにはそこで農作物を作り続けなければならぬ。それには、ある程度の整備が必要で、農機具も大型化してきたし、姨捨棚田は粘土質なので水の確保が重要なんです。景観を守ると同時に農家も守らなければ。」

入り組んだようにあった田んぼをきちんと区分けするには、親の代から棚田で育てていた桑の木や果木を切らなければならなかった。1本切られるたびに自分の身も切られるような思いがしたという。

整備の予定は30畝の予定だったが、農家の高齢化が進み、10畝に減らされてしまった。放置され、原野化してしまった田んぼを見るたびに心が痛んだ。「先祖からの田んぼが荒れるのは申し訳ないことだし、悲しかった。そんなとき、市から『整備できない田んぼでオーナーに貸しませんか』の提案があり、『これで水路ができ棚田が生き返る』と喜びました。」

昨年からはじめた「棚田貸します制度」には、姨捨棚田のネームバリューと交通の便の良さで、多くの応募が寄せられた。オーナー制度に賛同した農家13名で、農作業などオーナーの世話をするグループとして「名月会」も作られ、渡辺さんが会長に選ばれた。「名月会の優し

い農作業の指導と心遣いがうれし」と、オーナーの評判を得ている。「60歳を過ぎて自分たちの食べる作物を自分で作るという夢がないました」というオーナーの話に感激しました。また、「田んぼに入り泥の温もりを知った」という方が大勢いて嬉しかった。こういう体験が、農家と農業に対する理解につながっていくでしょう。」

取材が終わったとき「田舎の料理ですが、いただきます」と言っていて奥様のよしいさんが、お新香と白和えと、かぶ・にんじん入りと小豆入りの2種類のお焼きを出してくれた。「かぶは今朝、その棚田でとってきたんです。小豆も今年畑でとれたものなんです。うちに来てくれたお客さんには、必ず手作りのものを出しています。棚田で作物を作るのも同じ。『おいしかったよ』と返事がもらえたとき、『今年も良い作物ができて良かったな』と初めて思うんです。」



オーナーによる稲刈りの風景。更埴市は今年新たに募集区画を増やしている

## 今年も棚田オーナー & 応援グループ 求めます!!

棚田連絡協議会の結成や棚田サミットの開催により、たびたび新聞や雑誌、テレビなどで棚田が取り上げられ、人々の関心が急速に高まってきています。同時に、昨年以上に棚田で取り組みを行う地域も増えてきています。で、本号では全国の棚田のオーナーを募集する自治体・グループの今年の情報を紹介します。今年こそ棚田米作りにチャレンジしようと思っっている方、今からでも間に合います！。ただし、お問い合わせはお早めに…

- ①田の広さと年会費
- ②オーナーの特典
- ③オーナーの条件
- ④問合せ先
- ⑤その他

### 熊本県矢部町・ 迫田オーナー制度

- ①1畝あたり、年間35000円、田の貸付は矢部町が行いオーナーとの間で貸付け契約を結ぶ(期間は2年間、継続可)
- ②収穫したお米を精米してもらえ、有機・減農薬栽培を選べる、地元特産のたけのこ、お茶、しいたけ、山菜などの山の幸が届く
- ③作付けから収穫まで月1回以上、田に入り作業をすること、
- ④矢部町役場 経済課  
〈Tel 0967-72-1111、内線312~315〉
- ⑤「都市住民との交流を通して棚田の風景を守りたい。人を呼び、つながりをつくることで農産物の直接販売やブランド化につなげたい」という気持ちから、菅(すげ)地区の谷あいにある迫田(さこだ)で、昨年からはオーナー制度をスタートしました。「迫田」とは、小さい棚田のこと。菅地区には、険しい渓谷にへばりつくようにしてある迫田が数あります。また、近くには通潤橋など数多くの石橋もあるほか、国土庁の「水の郷」にも指定されています。この豊かな自然ときれいな清流にはぐくまれた水で、おいしいお米とお茶が生産されています。

### 奈良県明日香村・ 棚田ルネッサンス

- ①昨年は入会費1口10000円、1区画約100㎡で年間30000円で実施。今年はまだ未定。
- ②収穫した米を持ち帰れる、プロの指導を受けながら有機低農薬米を作れる、実りの時期にカカシを立てることができる、イベントに参加できる
- ③まじめに農業に取り組むこと、自然と触れ合う勇気があること、遊び心があること
- ④明日香村役場 飛鳥の郷づくりプロジェクト 〈Tel 074454-2001〉
- ⑤昨年、「飛鳥川の上流、神様のおられる所、奥飛鳥神奈備の郷」の稲渚地区にある棚田でオーナー制度をスタートしました。寺院や史跡がかもしだすのどかな里山の景観と明日香村のネームバリューで、昨年は700を越す問い合わせと280組よりの応募があり、32組のオーナーにより実施しました。今年はさらに10~15区画増やす予定です。また、レンゲ祭りや虫の夕べ、彼岸花祭りなど、「自然、農業、命」を考えるイベントが年間を通して盛りだくさんにあります。(ただし今回は昨年応募された方々を優先して、オーナーを決定する予定です)

### 高知県梶原町神在居・ 千枚田オーナー

- ①清流・四万十川に敬意を払い、1区画(約100㎡)につき、年間40010円。全部で30区画を募集
- ②収穫した米を持ち帰れる、米作りの専門家である農家から指導が受けられる、専用の宿泊施設が利用できる(有料)、野菜や壺石谷(いちこくだに)のおいしい水が持ち帰れる
- ③田んぼへ足を入れて稲を作る意欲があること、自然と付き合う勇気を持っていること、天災、無農薬の判断等で結果的に収穫できなくても、会費の返還、代替物の提供はできない
- ④梶原町役場 産業建設課  
〈Tel 0889-65-1111〉
- ⑤四万十川源流のまち、梶原町では今年、千枚田オーナー制度を始めて6年目を迎えます。険しい山あいでも収穫するお米は、昼と夜の気温の差が大きく、森から流れてくる清らかな水で育つので、「おいしい!」と評判です。古式豊かな行事や儀式の残る「神々が降り立つところ」神在居地区の千枚田で自ら耕し、稲を育て、子供たちに文化を伝え、農作業を通し人と触れ合うことで、ふるさとの良さを心から感じてみませんか。



## 三重県紀和町・千枚田オーナー制度

- ①昨年は、1口面積約100㎡で30000円。(今年はまだ未定)
- ②交流施設を優先的に利用できる、広報「紀和」や千枚田ニュースが送られてくる、季節の野菜を年3回提供される(予定)
- ③土を守り自然を愛せる人、農業に情熱を持っている人、農作業に従事できる人
- ④紀和町役場 企画観光課 商工観光係  
Tel 05979-7-1111
- ⑤日本一の広さを誇る丸山地区の千枚田で実施しているオーナー制度も、いよいよ2年目を迎えました。今年からは「丸山交流センター」もオープンしましたので、宿泊や千枚田での研修もできるようになります。  
あなたも丸山千枚田で米作りにチャレンジしてみませんか?  
ぜひ、棚田米作りの楽しさ、厳しさ、そして収穫の喜びを、あなた自身の手で味わってみてください。(写真・上)



## 棚田を支援するグループ

### 福岡県黒木町「山村塾」

- 稲作体験コースの会員を募集します。テーマは、放置された棚田で米を育て、食料自給と田園風景保護を目指すことです。
- ①田植え準備・田植え・草取り・稲刈りを棚田で体験します
- ②年会費 一家族40000円、無農薬米が60kgもらえます
- ③毛利宗孝 <Tel 0942-54-0866>。または、E-mail: mm1065-7@kurume.ktarn.or.jp

④山村文化を守ろうと山村塾を始めて3年目を迎えます。毎回、地元農家が用意した昼食を食べながらわいわいとしています。他に、棚田でできた無農薬合鴨米や椎茸・旬の野菜などの“宅急便(産直便)”や、“山林体験コース”や“森林オーナー”も続けています。さらに今年10月25日～11月3日に“日英合同里山・田園保全ワーキングホリデー in 福岡”を行います。これは、イギリスで実績のあるBTCVと共同で田園風景や自然環境を守る取り組みです。この中で棚田の石垣の修復作業もする予定です。

## 長野県更埴市・棚田貸します制度

- ①100㎡あたり年額30000円で、約50区画貸し出す予定
- ②収穫した米や野菜を持ち帰れる、地元農家で作る「名月会」から、農作業の指導を受けられる
- ③できるだけ多くの農作業を体験してもらうため、育苗・代かき・田植え・稲刈り・脱穀等、どのくらいの作業に参加できるかアンケートを行い、回答を参考にオーナーを決定
- ④更埴市役所 経済部農林課  
Tel 026-273-1111、内線444
- ⑤田毎の月で知られる姨捨(おばすて)の棚田で昨年より「棚田貸します制度」をスタートしました。電車なら篠ノ井線の姨捨駅から、車なら長野自動車道更埴インターチェンジから、歩いて約10分のところにあり、とても便利です。長野市など善光寺平を一望できる風光明媚な棚田で、家族揃って米作りを体験し、手作りのおいしい新米を味わってみませんか?

## 兵庫県大屋町・加保地区オーナー制度

- ①1枚25～70㎡の田んぼを全80区画貸し出す。50㎡あたり年額20000円(予定)
- ②宿泊施設や体験施設(ハム工房、木彫、パン工房)を割引で利用できる、有機栽培で米が作れる、田植祭などのイベントに参加できる
- ③特になし
- ④大屋町役場 産業課  
Tel 0796-69-0120
- ⑤町では第3セクターで(株)おおよ振興公社をつくり、荒廃した棚田で環境保全と農業の勉強・体験をし都市との交流を実現しようと、今年からオーナー制度を導入しました。棚田の近くには、宿泊・体験施設がある“大屋農村公園(仮称)”や川と魚の基地・鮎公園を整備する予定で、休日をのんびり過ごしていただこうと思っています。加保地区は、町内で一番おいしい米ができる地域です。その棚田で、「昔からの技術を知るプロ」から農作業の指導を受けて、有機栽培のおいしいお米を自分でつくってみませんか。

棚田が近くになくとも保全のために何かしたい、農作業を体験したいと思っている方は多いはず。そんな方必見の「農作業も体できる!棚田を応援するグループ」の来年の情報をご提供します。

- ①活動内容
- ②費用
- ③問合せ先
- ④その他

## 佐賀県西有田町・岳信太郎棚田会

- ①国見山麓の棚田開拓者である先人に敬意を表し、92300円(くにくみ)で3㎡(さん)。毎年2月に契約・更新(代表・前田正人)
- ②収穫した米を持ち帰れる、米作りのプロ(農家)の指導が受けられる、無農薬、減農薬、有機米などの生産が自由に選択できる、交流会に参加できるなど
- ③必ず田んぼに入って棚田と付き合うこと、天災等不作となっても文句を言わないなど
- ④西有田町役場 農林商工課  
Tel 0955-46-2111
- ⑤第2回棚田サミット総会会場へと向かうバスから見え、「美しい棚田景観」と評判だった岳(たけ)地区の棚田でオーナー制度がスタートします。標高300m以上で、川にはみずすましやげんごろうが息し、夏には蛍が飛び交う自然豊かな天然水で作るお米です。同時に生産者から直接お米を買う棚田天然米契約も実施します。年間契約は10kgで5000円、半年間・月ごとの契約もあります。

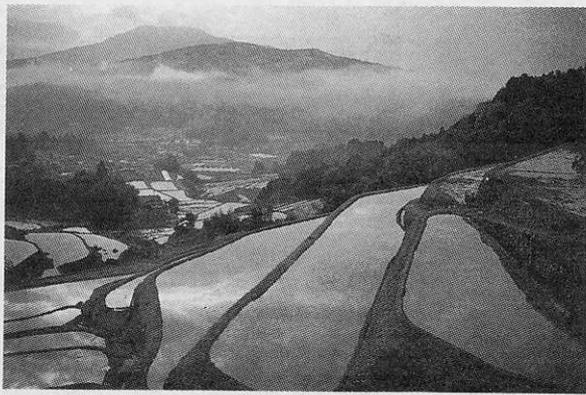
## 長野県中条村・信州稲穂オーナー制度

- ①1枚100㎡以下で、年間23000円。12枚貸し出す予定
- ②農作業の指導と管理は地元農家が行う、玄米で約45kg、白米で40kgの送付が補償
- ③特になし
- ④中条町役場 ふるさと活性化係  
Tel 026-268-3001
- ⑤御山里(みやまさ)地区の棚田で昨年よりオーナー制度を始めました。募集したところ、日帰りができるということで、群馬、埼玉など県外からの参加もありました。信州・中条村の澄み切った空気の中で、ぜひ、自分の食べるおいしいお米を作ってください。田植えは5～6月上旬の日曜日、稲刈りは10月初旬の日曜日、お米の送付は11月上旬の希望日に実施する予定です。

## 石川県「連合石川輪島・鳳至南地域連絡協議会」

- 景観美で名高い輪島市白米(しらよね)地区の千枚田で、農作業のボランティアをしませんか。
- ①93枚の田んぼで田植え、稲刈りなどを中心に農作業を支援する。
- ②年会費 3000円
- ③連合石川輪島鳳至南地域連絡協議会 <Tel 0768-22-1907>
- ④輪島では、農家の方々の高齢と後継者不足が問題になっています。会の目的は、貴重な稲作文化

の遺産であり、輪島市の観光資源である千枚田の景観を保全すると同時に、地すべりを防ぐことです。毎年、田植えや稲刈り作業の後に、バーベキューや餅つきをしたり、地元の太鼓を聞いて交流を図っています。収穫した米は、耕作者に配送し、地元の福祉施設へ寄付しています。来年の日程は決まっていますが、全国からのボランティア希望者をお待ちしております。



## 岐阜県恵那市 「恵那先史文化研究会」

●恵那に残るペトログラフ(古代文様)や田の神の歴史を探り、棚田保全につなげていく

①一昨年、棚田が広がる坂折地区で4～5千年前のペトログラフが見つかった事が会結成のきっかけ。石積みの歴史を通して棚田の持つ価値を改めて考えていきたい

②年会費 3000円・会報が届く

③恵那市役所 総務部企画課  
〈Tel 0573-26-2111〉

④坂折地区の棚田には、また、「梯田」「化粧田」など22個の名前

のついた田んぼがあります。石積文化を研究する上でも貴重な遺産である棚田を保全をするべきか、基盤整備をするべきか、話し合いが行われています。その一方で、恵那の棚田の価値をまずは地元が理解するため、会では勉強会も開いています。昨年は、中島峰広早稲田大教授を招き、調査と講演をしてもらいました。その結果、「用水の横井戸が石積みに生まれ込まれた棚田は全国でも数カ所しかなく、日本の棚田の一級品」ということでした。環境保全をキーワードに行政と民間が一緒になって、歴史的価値のある棚田を保全していきたいと考えています。

(写真・上)

## 熊本県水俣市 「久木野ふるさと センター・愛林館」

●稲作体験の希望者を募集します。

①田植え(6月上旬)・稲刈り・わら細工の教室を約3㍓の棚田で実施する

②参加費 1500円

③愛林館〈Tel 0966-65-0485・宿泊、風呂、調理などの施設もあり〉(館長 沢畑 亨)

④今年は、田植え後に合鴨を棚田に放し、無肥料栽培でどれだけ

米が収穫できるかに挑戦します。また、稲作体験とは別に棚田オーナー制度も始める予定です。さらに「種蒔きから胃袋まで」のフルコース体験教室では、転作作物として棚田で育てている“そば”作り教室や豆腐づくり教室、棚田とは関係ないけれど伝統的な焼畑農業によるもちあわ作りや、もちつきなども行います。山村文化を体験し、その基盤である棚田や森を守り育てる意義を理解することによって山村の味方が少しでも増えれば、と考えています。

## 東京都 「棚田ネット東京」

●会員を募集します。入会条件はなく、現会員の年齢や職業もさまざまです。

①月1回会合を開き、情報交換もしくは講師を招いての勉強会をする。棚田での稲作を体験する。会員紙の発行など

②年会費 一般3000円、学生2000円

③代表 高野光代〈Tel 0423-95-1184〉

④「全国棚田連絡協議会の個人会員が自由な立場と発想で具体的に活動できる場にしたい」と発足して1年と少し。この間に、中島峰広教授(早稲田大学)等による勉強会、新潟県松之山町での田植え・稲刈り体験、兵庫県恵那市や福岡県星野村の棚田視察など、積極的に活動してきました。今年はさらに、会で棚田を借り1年を通じた稲作を体験したいと考えています。また、全国に「棚田ネット関西」「棚田ネット九州」などが生まれて、ネットワークがつながり、活動の幅が広がることを期待しています。

## Information ご案内

### ●棚田の全国的な調査が始まります●

来年から年間3～5県のペースで、棚田の全国的な調査を始めます。

調査をすることで「今、日本の棚田がどこにどのような姿で存在しているのか」「これから棚田をどのようにしていくことがよいことなのか」などを把握し、今後の棚田のあり方や保全策を考えていく上の貴重な資料として、さらに中山間地域の活性化のための資料として役立てていきたいと思っています。

つきましては2月末頃から、各自治体の棚田担当者や一般の棚田関係者様宛に、ふるきやらネットワークから調査用紙が届くと思います。必要事項をご記入いただいた上、返送していただけるようお願いいたします。

ご協力の程、よろしくお願いいたします。

### ●全国棚田(千枚田)連絡協議会・会員募集中●

▽会費	正会員(自治体・団体)	30,000円
	(年額) 正会員(個人)	10,000円
	賛助会員	5,000円

▽お申し込みは

入会申込書を郵送またはFAXで下記宛にお送り頂いた上、会費を指定の銀行にお振込み下さい。

■高知県梼原町役場 産業建設課

〒785-06 高知県高岡郡梼原町梼原1444-1

TEL 0889-65-1111/FAX 0889-65-0956

■振込先 津野山農業協同組合(普)7113000

全国棚田千枚田連絡協議会 中越準一

## 新 会 員 に な り ま し た! 大江町役場

大江町は、「むかし丹波の大江山 鬼ども多くこもりいて…」と小学唱歌に唄われた、鬼退治伝説の町です。この大江山の麓“酒呑童子の里”に昔ながらの千枚田が残っています。茅葺き屋根の民家と水車小屋がこの千枚田とマッチして、一層風情のある農村景観をかもしだしています。人力に頼る農作業は、お年寄りには大変な仕事ですが、みんなでガンバっています。ぜひ、この農村景観を将来に残していきたいと思ひます。千枚田のオーナー制度や稲刈り体験交流などを企画しますので、都会の皆さん!力を貸して下さい。よろしくお祈りいたします。

●〒620-03

京都府加佐郡大江町  
字河守285

●TEL 0773-56-1101

●FAX 0773-56-2018

●町長 佐藤 克巳

●担当 産業建設課農政係

●交通 ●JR福知山駅から北近畿タンゴ鉄道で大江駅下車

●車で福知山市から国道175号、大阪からは国道178号または近畿自動車道で大江町へ



## 全国棚田(千枚田)連絡協議会

### 新しく会員になった皆様



正会員(自治体)	京都府	大江町	／	佐賀県	玄海町	町長	鶴田 留蔵
(団体)	東京都	(株)ふるきやらネットワーク				代表	花岡 由雄
	長野県	信濃毎日新聞社				編集担当	瀬木 潔
	佐賀県	農業協同組合中央会					山田 豊
	広島県	(有)寺田米穀商店					寺田 公德
	東京都	大提燈米穀店					中島 哲
	石川県	(財)千枚田景観保存基金					五嶋 耕太郎
(個人)	佐賀県						秀島 好知
	東京都						羽田 孜